

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	栃木県芳賀郡二宮町大字石島463 (電話) 0285-74-3714		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年4月28日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,000 円	その他の経費(月額)	・管理費—22,000円 ・おむつ代—1枚(150円 30円・20円)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	380 円	昼食 550 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		1名	要介護2		2名	
要介護3		2名	要介護4		3名	
要介護5		1名	要支援2		名	
年齢	平均	88.8歳	最低	77歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真岡病院、小貫歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームさくらは平成13年4月に特別養護老人ホームと敷地続きに開設された。町の花の桜をホームの名にとり、近くにSL機関車の走る音響が聞こえるのどかな田園地帯に囲まれた、やや高台に位置したホームである。ホームからの展望も良く、日中は建物の鍵を全て開放している。入居者と職員の家庭的な会話や雰囲気の中から、有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるように意思、人格を尊重して常に入居者の立場に立って支援をしている姿がうかがえた。また、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、町、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、他の介護保険施設、保健医療サービス、福祉サービスの提供者との密接な連携に努めている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は運営推進会議で報告したり、スタッフ会議で話し合い、職員の気づきやアイデアなどを取り入れて今後の課題等を検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、組織としての必要性を職員に説明周知し、話し合いをして管理者が記入した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族代表、民生委員、町の職員、地域包括支援センター長、法人事務長、管理者がメンバーになっている。避難訓練、地域との交流状況、月間行事、推進会議の回数等を具体的に話合っている。家族から介護の難しさや苦労話の体験談なども話されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問の際に健康状態や日常の暮らしぶりなどを報告している。月1回、家族に手紙を送ったり、運営推進会議に家族にも参加してもらっている。預り金の金銭管理については家族の来訪時に出納帳を報告している。ホームの相談、苦情等の窓口を重要事項説明書に明記し、相談、苦情などをいつでも受け入れることを説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し地域の伝統行事に積極的に参加している。幼稚園の運動会、日赤奉仕団の朗読会、健康踊り、よさこい踊り等を通して地域住民と交流を図っている。また、町の委託事業としての介護予防教室で講演を行ったりもしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の下で、日常生活上の支援（健康管理、機能訓練、有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう目指す等）、本人主体を大切にしながらの支援、地域や家庭との結び付きを重視したサービスを提供すること等を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、運営目標を具体化し事務室、寮母室に掲示している。また月1回の職員会議にて自己意識づけをしたり、「二宮会の5項目」を朝の朝礼にて唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の伝統行事などに積極的に参加している。幼稚園の運動会、日赤奉仕団の朗読会、健康踊り（四つ竹踊り）、よさこい踊り等を通して地域住民と交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議で報告したり、スタッフ会議で話し合い、職員の気づきやアイデアなどを取り入れて今後の課題等を検討している。今回の自己評価は、組織としての必要性を職員に説明周知し、話し合いをして管理者が記入した。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、町の職員、地域包括支援センター長、法人事務長、管理者がメンバーになっている。避難訓練、地域との交流状況、月間行事、推進会議の回数等を具体的に話合っている。家族から介護の難しさや苦労話の体験談なども話されている。	○	会議の回数については、定期開催以外にも会議を開催しながら、6ヶ月に1回ではどうかという提案もされている。ホームが地域とつながりながら、入居者の生活を支えていく素地づくりとして運営推進会議等の地域の方々の集まる機会を有効活用していくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の在宅介護支援センターが行った町の委託事業としての介護予防教室での講演を行ったりもしながら町との連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には健康状態や日常の暮らしぶりなどを報告している。また、月1回手紙を家族に送っている。金銭管理は家族との買い物が主であるがその他は家族の来訪時に出入帳を報告している。	○	2ヶ月に1回の広報誌の発行を検討中とのことである。家族への情報提供の機会をより増やし、一層家族との絆を深めていく意味でも、手紙と共に家族に配布していくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム、行政、国保連の連絡先を明記している。不満、苦情、相談の受入れについては掲示板に掲示し、相談、苦情などをいつでも受け入れることを説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに管理者、職員の異動があったが併設施設からの異動であり引き継ぎの期間を十分にとり、入居者一人ひとりと居室で話をするなどの配慮をしている。日常支援の中で職員間の連帯感が高く、異動があるときでも入居者に対する目配り、気配りをしながら入居者に影響がないように配慮している。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修を職員の経験や力量に応じて受講している。年2回の全体研修にホーム長、感染防止委員、調理委員等が参加し研修内容を報告している。外部研修の案内があったときは、朝のミーティング時に職員に話をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。併設施設と合同行事交流会を設けケアの方法についての理解や連携を図っている。他の施設のユニットケアの見学等もしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込み時には、今までの生活歴について家族から聴き取り、家族、本人に見学に来てもらい雰囲気を見てもらうようにしている。入居後は混乱や不安、行動を気にしながら入居者の視点に立つて柔軟に支援し、自立した生活が送れるようサポートしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩という意識を持って職員が接しており、入居者個人個人の能力に応じたさり気ない支援の配慮をしている。訪問時にもお茶出しや、編み物、整理整頓をしている入居者に寄り添いながら会話をしている職員の姿が見られた。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別のケース記録などで職員同士が情報の共有をしている。一日の生活の流れの中で、場面場面において入居者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り、意志を尊重して入居者が自分のリズムを崩さないよう、また入居者が自信を持って生活していけるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の意見希望を踏まえ、毎月のカンファレンスで職員の気づきも加えながら、自立した暮らしを尊重しながら、一人ひとりのその時点に合った個別・具体的な介護計画をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人のニーズ等を踏まえながら長期、短期目標を立てている。状態が変化した場合は随時見直しをしており、家族の来訪時や、毎月の手紙で報告をしている。見直しは概ね3ヶ月～6ヶ月としているが状態の変化時などには随時見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	公共施設や近隣の商店への協力を働きかけたりしながら柔軟な支援に努めている。また、併設施設と協力しながら、相談援助なども行っている。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診の経過を確認して本人、家族の納得を得られ対応ができるよう話し合いをしている。持病に対しての必要な医療機関への受診支援をしたり家族の協力を得たりしている。また、協力医療機関の往診があり随時助言や指示が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については入居者、家族との結びつきを重視し、家族、協力医療機関との連携を密にとっている。	○	入居者の意思、人格を尊重しながら家庭的な環境の下で職員全員で取り組んでいくことを考えているので、継続的に職員間での話し合いを行っていくことにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法や情報漏洩防止の理解に努め、記録等は事務室にて保管している。プライバシーに関わる話や支援は入居者の自尊心を一番に配慮して目立たず、さり気ない対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに合わせ、個人個人の体調や気分を尊重しながら支援している。入居者が主人公となって生活が送れるよう、入居者の希望に添えるよう、声かけをしながら支援をしている。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの食べたい物等を把握しながら管理栄養士が献立を立て、注文したり買い物にいたりしている。入居者もキッチンに入り、職員と一緒に準備や片付けをしている姿があった。職員も入居者と一緒に同じ物を食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせて寛いだ雰囲気に入浴できるように健康状態を考慮して対応している。週2回以上の入浴を目安に、午後1時からと夕方5時からの時間帯で支援している。また、希望に沿っての支援もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、お茶配り、野菜の皮むき、編み物など、入居者自ら動く場面づくりが行われていた。入居者一人ひとりのできることを探し、日々の生活の中で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩、行事などの外出の機会をつくり、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として外出の支援をしている。また、家族の協力もあり、お盆やお彼岸のお墓参り、草取り等の機会づくりにも配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物全てに鍵を掛けないケアを実践している。外出傾向の把握をし、常に見守ることで行動の制限をしないようにしている。夜間は防犯のため、また習慣としての戸締りという意味で入居者と共に鍵をかけている。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施している。地元自治会にも加入し交流を図っている。総合訓練は法人と一緒に実施し、いざという時の実践を想定した自主訓練をホームで実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好を把握しながら、併設施設の管理栄養士の作成した献立に基づき、一人ひとりの健康状態に応じて調整をしながら支援している。	○	食事や水分の摂取状況を確認・記録し、職員間で情報を共有し、職員全員で意識しながら支援していく仕組みづくりなどの検討にも期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす共有空間には季節の花や季節感のある飾り、ちぎり絵が掲げられていた。空気の淀みがないよう適切な換気に気をつけている。天窓の開閉に気をつけたりしながら、冷暖房に頼りすぎない温度調整にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた家具、生活用品を持ち込んで自宅での今までの生活と同じ生活ができるように家族と協力をしながら支援している。その人らしい居室づくりで安心して過ごせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。